

第 38 回土木計画学研究発表会（秋大会）：2008 年 11 月 1 日～3 日（和歌山大学）
セッション討議内容の記録

セッション名：コミュニケーション（3）	
日付：11月 1日（土）曜日、セッション時間：16：45～18：15	
司会者名（所属）：金井昌信（群馬大学大学院）	
討議内容	<p>セッション全体： それぞれに共通する話題が少なかったので、全体討議は行われずに、各発表に対する個別の討議を行った。</p>
	<p>（125）松村暢彦（大阪大学大学院） 取り組みの実施方法や継続的に実施していくための知見について討議した。 （以下は個別の質問とその対応）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者の声を聞いたりしたのか？リピーターはいるのか？ 毎回聞いている、リピーターは少ない ・取り組みの持続性（回を繰り返す／参加者が継続的に参加／参加者同士の関係の継続）については？ ブログを開設したので、それをういて横のつながりができれば・・・ 予算が継続して確保することができるかどうか問題、今回は行政が金を出さないけど、人は出してくれた。その後交通事業者が出してくれたので、行政も出してくれるようになった。 ・交通事業者が営業戦略的にイベントを開催するという方法もあるのでは？ 今のところはそのような動きはない ・どういうやり方で実施したら、“面白い”と参加者に思ってもらえるのだろうか？ 実施者側が面白いと思うことは簡単、やりたいことをやればいい。しかし、参加者の面白いを引き出すのは大変。達成感（スタンプラリー）とか新発見（穴場の紹介）を盛り込んでいる。大所高所からではなく、参加者の視点で計画している。
	<p>（126）小田美由紀（山梨大学大学院） ソーシャル・キャピタルをどのように定義し、それを観察者がどのように計測することができるのか等について討議した。 （以下は個別の質問とその対応）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今での水俣とコミュニケーションをとっているのか？ メールくらい ・ソーシャル・キャピタルの定義の中に効率性があるのはなぜか？ ないよりあれば効率的に物事をすすめられると思う ・信頼の構築が意識の共有。共同作業よりも前にあるのはどうしてか？ 嫌い人とでも協力しないとどうにもならないイベントが目の前にあった場合には、このような流れになる ・互酬性の規範が目的意識の共有化でできてくるが、もっと後の段階ででてくるのでは？ 信頼と一緒に、先になんとかしなきゃいけないという思いが強かった ・ここから得られる知見は？嫌われても、支援の手をさしのべ続けた行政担当者にはどのような葛

藤があったのか？どうして、それができたのか？

本人に聞いてみないとわからない

- ・ソーシャル・キャピタルは外部からそれが蓄積したということを明らかにできるのか？
ヒアリング調査から、そのような意見が多く挙げられ、かついくつかの問題を解決していたことから判断した

(127) 武井紀子 (芝浦工業大学大学院)

グループディスカッションなど、多人数での議論に参加するためのスキルは何か、またどのようにすればそれは身に付くのか、を討議した。

(以下は個別の質問とその対応)

- ・モデルシラバスのコンテンツはどのように作成したのか？
多様な価値観を知ることが大事で、それを知るための力を身につけることが本研究の目的。ディスカッションを実施するグループとしてのパフォーマンスを如何にあげるのか、という視点でコンテンツを作成した
- ・学生以外の人と話す機会はあるのか？今後の展開は？
費用便益分析、需要予測に関する議論をして、その結果を地域住民に説明する機会を演習として実施する予定
- ・個人差については、どのように扱うべきか？
個人の性質を変えることまでは考えていない(ただし、個別にアドバイスはしているが)。個人の評価ではなく、グループのパフォーマンスを評価することを主目的としている
- ・ファシリテータに向いている人、向いていない人がいると思うが？
本研究の目的は、グループディスカッションで議論に参加するためのスキルを高めることを目的としているので、その取り仕切り役のファシリテータになるためのスキルだけを高めようと考えている訳ではない。議論の場に参加する能力を高めることを考えている
- ・大学の教育カリキュラムの中で、このようなコミュニケーション演習を入れることの効果は？
このような講義を入れることで、専門に関する講義が減ってしまうことも考えられるが・・・
教員との密な関係をつくることを主目的としたゼミ形式の講義があるので、その時間を用いている。これに参加することで、専門教育を受ける態度も向上したような気がする。